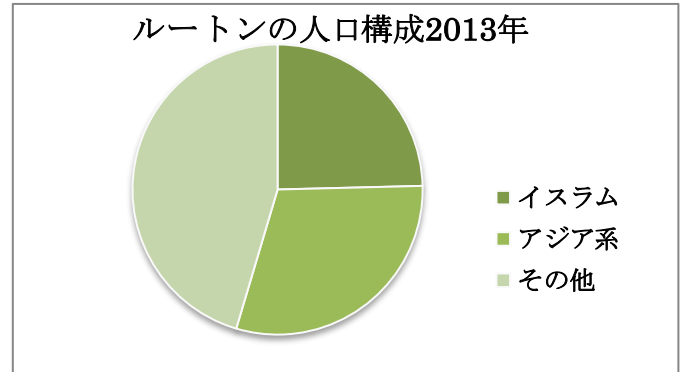


英国の地方都市における移民（イスラム系）問題

庄司俊恵

ロンドンから 50 km 北に位置する Luton (ルトン) を例にとり移民問題を考えてみる。

2004 年から拡大 EU 政策で移民が急激に増えた。2004 年には年間 24 万人に (過去 10 年間と比較して 2 倍) さらに増加の傾向にあった。ルトンはイスラム系 (パキスタン、インド) が多いのが特徴である。人口 20 万人の都市に 4 人に 1 人がイスラム系、3 人に 1 人がアジア系、その他に黒人も入るので白人系は半分以下である。*1



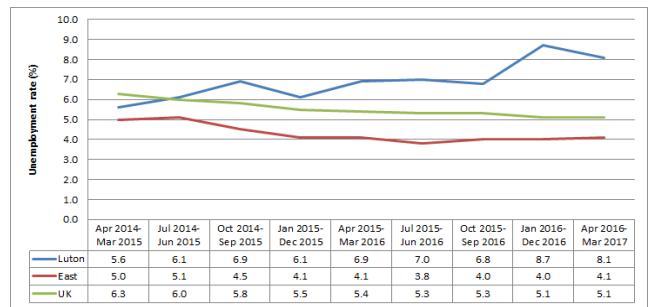
ルトンが有名になったのは、2005 年ロンドン地下鉄・バス自爆テロ。犯人全員はイスラム系、英国で高等教育を受けていた。リーズから車で

来て、ルトン駅からロンドンへ向かった。イスラム過激派の拠点があることが判明。2017 年国会議事堂付近で起きたテロ単独犯は 52 歳、2 年間ルトンで暮す。なぜ、イスラム系がテロに走るか、オックスフォード大学の調査を紹介する。*2

ルトンではイスラム男性の失業率が全国平均よりかなり高い。(イスラム女性は全国平均並み)

Male Quarterly Unemployment in Luton 2014-2017

移民は安価な労働力として長く扱われてきた。2 世 3 世でも安定した職になかなか就けないのが現状である。不景気となれば真っ先に職を失う。失業手当や再就職の斡旋など、増加する移民に社会福祉が追いつかない。イスラム青年は体面を重んじる家長制の強い家庭で育ち、男らしさ・高い社会的地位を期待される。よって重労働 (社会的地位が低い人の職と見なす)、および単純作業 (給与が安い) は敬遠しがちである。本人たちが何とかパートタイマーの仕事を見つけてきても父親が反対するケースも多々ある。イギリスで生まれ育ったイスラム青年は他のイギリス人と同等に就職ができないことに不満を抱き、家庭内では父親から認められない状況にあつて孤立している状態がオックスフォード大学のインタビュー調査からわかった。イスラムコミュニティは閉鎖的で、地域社会とつながりが薄い。また、若者はモスクの長老たち (高齢の指導者) と疎遠がちで、1 世代と隔絶感がある。コミュニティ内に過激派が潜り込んでも住民にはわかりづらい。それ故、孤立・孤独な青年たちに過激思想を植え付けるのは容易いと言える。



根本的な問題・・・ 失業の影響 (移民・代々地元に住む住民ともに)

失業で経済的な損失を受けると生活不安が心を荒廃させ、健康悪化・技能レベルの低下・家庭崩壊を誘発・犯罪率を上昇させる。ルトンはイギリス国内でも治安がかなり悪い。失業者の不満は、会社、地域社会、国へ向けられる。これといった失業対策や福祉政策が進まない現状で、心が荒み疎外感が増し、益々社会との繋がりを失い焦燥感や絶望感に苛まれ就職活動もままならないという悪循環に陥り深刻な社会問題になっている。これはイスラム系住民に限らず、地元の人々にも同じような影響を及ぼしている。何代もイギリスに住んでいる市民にとって移民は生活の脅威とを感じる人は多い。労働者階級は安い賃金で働く移民に仕事を奪われた怒り、あるいは奪われるのではないかと不安に苛まされている。中流階級は移民のための政策に更に治安の維持のため税金が使われ、公共サービスが低下していくのをかなり不満に感じている。

対立が生まれる背景

① 移民・地域に不適応・不順応

固有の文化・習慣を守る

例) イスラム学校・神学校を英国内に建てる

子どもを通わせる

身を守るため、コミュニティに依存

② 地元住民

人種・宗教に対しての差別や偏見

仕事を奪われる・社会福祉の劣化

移民に対する悪感情が生まれる



イスラムコミュニティを一步出れば、イスラム教徒は嫌がらせやいじめを白人系地元住人から受ける。2005年のテロ以降、反イスラム過激派を掲げる EDL(English Defence League)が設立された。創設者トミー・ロビンソンはルートン地元民である。その他に BNP(British National Party), BF(British first)などが挙げられる。これに対して白人系イスラム融和派の組織も設立されイスラム穏健派とイスラム過激派と4つ巴となって、時に激しくデモでぶつかり合い、一般市民に治安の悪化を懸念させている。

入り組んだ社会構造

共生と排除で揺れ動く

①地元住民

地元住民

UAF(イスラム融和)

⇔

EDL(反イスラム)

極右 BNP・BF

②イスラム系移民穏健派

⇔

イスラム系移民過激派

移民はマイノリティで被害者という一方で、テロリスト以外にも加害者という立場になっている場合もあることから移民問題の解決を複雑にしている。

移民の受け入れについて最大のデメリット → 違法移民が生まれる

1. 制度の悪用 → システムの欠陥を突く

就労者や学生以外でもビザを発行

偽装結婚・偽装家族で移民

2. 入国管理局の対応が追い付かない 限られた予算と担当人員が不足

<結果>

組織的に移民に仕立て受け入れ国に送る

違法移民ビジネスが成立＝**人身売買**

移民が移民先で非合法組織に協力または経営に参加

犯罪組織は年間 4500 億円英国で稼いだ。90 年代

今はもっと規模が大きくなっているが政府は実態を

つかみ切れていない。

このような状況はテロリストに入りこむ隙を与える

英国政府は今の現状に対応[特にテロ対策に相当な人員と費用が掛かる]するのに手一杯の状況で、移民を制限する方法しかできていない。今の資本主義のあり方を変える時期が来たのではないかと多くの識者が提案している。*3

*1 イギリス国勢調査局, Luton Labour Market Summary August 2017/Business Intelligence より

*2 Precarious work, protest masculinity and communal regulation: South Asian young men in Luton, UK
Linda McDowell(University of Oxford, UK), et al. 2014

*3 NHKTV ドキュメンタリー「欲望の経済史」より 2018年1月 放映